

第5課 義認と律法

安息日午後 今週のテーマ

今週は旧約聖書の中にも恵みによる救い、信仰による義がふんだんに表されているということを主にロマ書4章から学びます。

日曜日 確立された律法 ローマ3:31、4:1~8

Q. 律法を確立するとはどういう意味ですか？

A1. 恵みによって救われた者はご再臨の日、完全に回復され、この世においても全人的回復はなされます。それは律法を確立することを意味します。

A2. 「律法」とは旧約聖書をも意味します。旧約聖書に約束されていた恵みによる救い、信仰による義認がイエス様の十字架によって確立された、ということの意味します。

Q. ローマ4:1~8には旧約聖書における信仰による義について何と教えていますか？

A. アブラハムは割礼を受ける前に義とされています。信仰の父と呼ばれるアブラハムもこの時は、自分の妻を妹と偽ったり、神様の約束を待てずに、女奴隷との間にイシュマエルをもうけたりしました。ダビデにおいても、姦淫と殺人の罪を犯した後に赦されています。これらは旧約聖書に表された信仰による義の代表的な例です。

月曜日 恵みか負債か ローマ4:6~12

自分の力で救いを得ようとする人は、自己中心になります。自分の救いのために他者を排斥しようとします。自分を偽ります。他者を裁きます。神様の要求の最小限度を探します(どれだけ献金すればよいか？隣人とは誰か？何をしてはいけないのか？何をすればいいのか？と問います)。

恵みによって救われている人は、神様中心になります。他者の救いのために他者を歓迎します。等身大の自分を認めます。他者を赦します。神様のために何ができるかを探します(どうすれば多くの献金をできるか？どうすれば隣人の必要に応えられるか？神様のために何ができるか？と問います)。

Q. 恵みによる救いは、どのような人間観を生みますか？

A. 人は皆罪人で誇ることはできません。一方神様は人のために十字架について永遠の命をお与え下さいました。この愛によって、人は全宇宙より価値ある者とされました(マタイ16:26)。

火曜日 約束と律法 ローマ4:13~17

「従って、信仰によってこそ世界を受け継ぐ者となるのです。恵みによって、アブラハムのすべての子孫、つまり、単に律法に頼る者だけでなく、彼の信仰に従う者も、確実に約束にあずかれるのです。彼はわたしたちすべての父です」(ローマ4:16)。→私たちはアブラハムの子ら、霊的イスラエルです。

水曜日 律法と信仰 ガラテヤ3:21~23

Q. 自分の行いによって救われようとする思いが人を罪に対して無防備にするのはなぜですか？

A1. 自分の行いによって救われようとする自己中心性が罪そのものだから。

A2. 神様不在だから。それは自分のやり方であって神様が選ばれた方法ではないので。

木曜日 律法と罪 Iヨハネ2:3~6 ローマ3:20

律法は創造の時から将来に至るまで、祝福として私たちに与えられています。道徳律はイエス様によってその内容はさらに深められ拡大されました。礼典律はイエス様の十字架とご再臨、その後のお働きによって成就します。健康に関する規定は、今や私たちが、神様のご栄光を表すための最善に委ねられています。確かに、救いの根拠はイエス様の贖い(身代わりの償い)です。行いではありません。

しかし救いの目的(救いの意義)は、私たちが罪を犯す前のアダムの状態に回復されることです。

全人的回復こそが救いの目的（救いの意義）です。